

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平年より早い梅雨入りに伴う多雨・日照不足対策について（通知）

このことについて、令和 3 年 5 月 16 日付で「梅雨の時期に関する近畿地方気象情報第 1 号」が大阪管区气象台から発表されました。平年より 21 日早い梅雨入りとなり、農作物の生育等への影響が見込まれますので、生産者に対して幅広く注意喚起をお願いします。

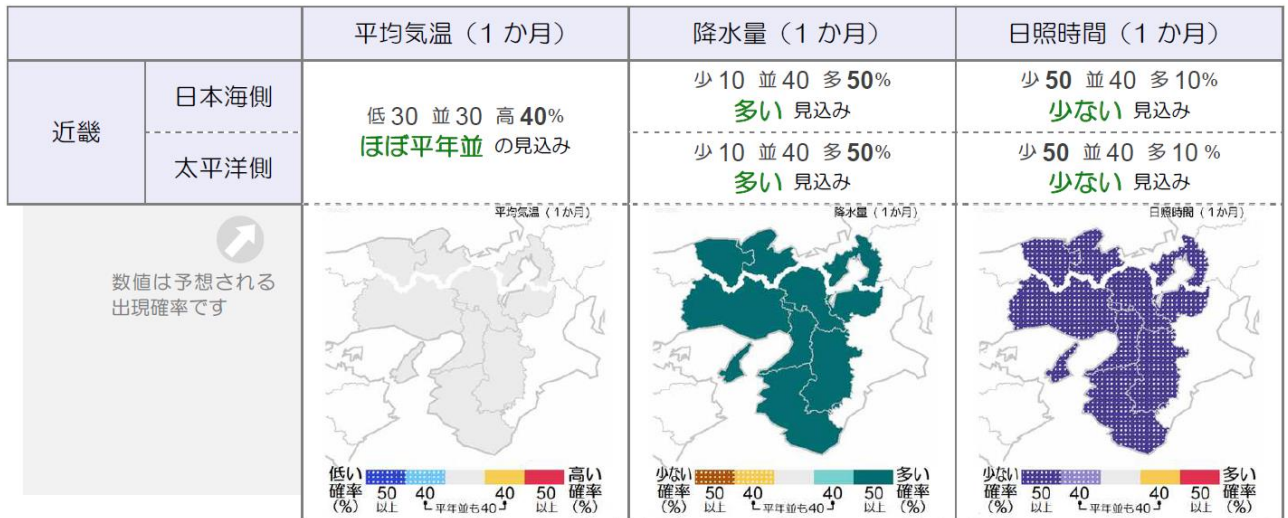
記

1 近畿地方 向こう 1 か月の天候の見通し（令和 3 年 5 月 20 日 大阪管区气象台発表）

(1) 予報のポイント

低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう 1 か月の降水量は多く、日照時間は少ない。

(2) 1 か月の平均気温・降水量・日照時間の予測



(3) 週別天気

(1 週目) 5 / 22 ~ 28	(2 週目) 5 / 29 ~ 6 / 4	(3 ~ 4 週目) 6 / 5 ~ 18
低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。	低気圧や前線の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多い。	平年と同様に曇りや雨の日が多い。

## 2 農作物栽培上の留意点

作物	対 応 策 (栽培管理上等の留意)
水 稲	<p>&lt;苗作り&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 冠水の恐れのない場所に苗床を設けておく。</li> <li>② ムレ苗にならないように薄播きする。</li> <li>③ 徒長及びかび類の発生を防ぐため、早めに苗の緑化と硬化を行う。</li> <li>④ ムレ苗、徒長を防ぐため、灌水を控え目にする。</li> <li>⑤ 徒長した場合は、地上10cm位のところから剪葉する。</li> <li>⑥ 苗いもちの発生に注意し、早期防除を心がける。</li> <li>⑦ かび類発生時は、早めに防除を行う。</li> </ol> <p>&lt;本田（共通）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 病害虫の発生に留意して苗箱施薬剤等による防除を徹底する。特に葉いもちが多くなるので、早めに防除する。</li> <li>② 本田に残された不要の補植用苗は早めに処分する。</li> <li>③ トビイロウンカ、セジロウンカの飛来が例年より早くなる可能性があるので、適用のある箱施用剤を確実に処理し、定植後は本田での発生に注意する。</li> </ol> <p>&lt;本田（機械移植）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基肥窒素量は控え目にして、やや疎植とする。</li> <li>② 間断灌水を行い、深水は避ける。</li> <li>③ 排水溝の清掃、補修や畦畔の補強等、あらかじめ大雨による水害対策を準備しておき、水害が起これば、稲の生育回復、埋没苗の処理、排水と灌水、徒長稲の剪葉、茎葉の洗浄、泥土の除去、病害虫の防除等に努める。</li> </ol> <p>&lt;本田（乾田直播）&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 冠水による出芽不良を防ぐため、排水に努める。</li> <li>② 乾田直播が行えない場合は稚苗植えにする。</li> <li>③ 除草と病害虫防除は、晴天を利用して迅速に行う。ただし、除草剤と殺菌殺虫剤との近接散布は避ける。連続降雨の場合は粒剤を施用する。</li> <li>④ 連続降雨の場合は、湛水直播に準じた肥培管理を行う。</li> <li>⑤ 冠水害が出ないように、圃場を見回り、排水を行う。</li> </ol>
大 豆	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。</li> <li>② 晩播きしないで、適切な栽植密度を確保する。</li> <li>③ 天候の推移に注意し、土壌条件が良くなってから播種するが、北部では6月下旬、南部でも7月中旬までには播き終える。</li> <li>④ やむを得ず晩播き（北部では7月上旬、南部では7月中旬を限度とする。）となる場合は、やや厚まきとする。施肥は、適期播種の場合よりやや多めとする。</li> <li>⑤ できるだけ早めに培土を実施し排水を図る。</li> <li>⑥ 立枯性病害の対策として、排水を徹底し、発病しにくい環境を作るとともに、予防と被害株の除去を行う。</li> </ol>

小豆	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。</li> <li>② ほ場の土壌水分が高いときは、耕耘や畝立て等の播種準備作業は控える。</li> </ul>
麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。</li> <li>② 赤かび病及びうどんこ病が発生しやすいので、追加防除を行う。</li> <li>③ 天候の推移に注意し、成熟期に近い場合は穀粒水分を確かめた上、できるだけ降雨の前に収穫する。</li> <li>④ 比較的短時間の雨の場合は、降雨のあとの晴間で穂が乾けば、次の降雨までに収穫する。この場合、穂の表面が乾いていても、穀実は（成熟後であっても）かなり水分が多いので直ちに乾燥にかかる。</li> <li>⑤ 収穫適期以降2回以上雨に当てると、かびが発生したり穂発芽する恐れがあり、芽ぐされ、退色など品質低下を起すので注意する。</li> <li>⑥ 倒伏箇所や未成熟箇所の刈り分けを行う。</li> </ul>
露地野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 排水溝をさらえ、排水口とつなぐなどの排水対策を徹底する。降雨後は圃場外に速やかに排水するとともに、降雨で畝が崩れた場合は、管理機等で谷上げする。</li> <li>② 殺菌剤の散布は降雨前に計画的に実施するが、実施できなかった場合には降雨後に実施する。</li> <li>③ 今後、畝立て作業が必要な品目は、計画的な作業が実施できるよう、明きょを設けるなど、表面排水に努める。</li> <li>④ 多雨・日照不足により、軟弱徒長気味に生育するので病害の発生に注意し早期に防除を行う。</li> <li>⑤ 露地栽培では、薬剤散布できる条件が限られることから、防除のタイミングを逃さないようにする。</li> <li>⑥ 梅雨時期は、ナメクジ、カタツムリ類の活動が盛んになるので、発生及び被害に留意する。</li> </ul>
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 収穫時の多雨は病害（特に細菌性病害）の発生を助長するので、収穫前の防除を必ず行う。但し、薬剤の収穫前日数に留意すること。</li> <li>② 気象予報に留意し、収穫作業は晴天の連続するときに実施する。</li> <li>③ 収穫後は、強制通風乾燥や除湿機等を利用し、十分乾燥させる。</li> <li>④ 病害の発生、特にべと病、灰色腐敗病等の発生に留意し、地域の防除暦に従って計画的に防除する。病害の多発した圃場では、菌密度低減のため収穫後45日以上湛水を実施する。</li> </ul>
キャベツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 降雨等により球が急激に肥大し、裂球しやすいので、とり遅れないようにする。</li> <li>② 菌核病等の病害が多発しやすいので、殺菌剤による病害抑制を行う。特に細菌性病害は降雨前の防除を徹底する。</li> </ul>

岩津 ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① チェーンポット育苗及びセルポット育苗の剪葉は、病害の感染を助長するため降雨直前や降雨中には行わない。</li> <li>② 苗の本圃への植え付けは、晴れ間が数日続く日を選んで行い、土壌が過湿の時は極力避ける。</li> <li>③ 植え付け溝が降雨で滞水した場合は、早期に排水を行い、土壌水分が過剰な場合は無理な土寄せは避ける。</li> <li>④ 草勢の回復を図るため、新根の発育を促す場合は、株元を浅く耕したり根元に土を軽く寄せることで土中に空気を入れるようにする。</li> <li>⑤ 日照不足により草勢が低下していることから、薬剤防除の際には薬害に注意し、気温の低い時間帯に散布する。</li> </ul>
ピー マン	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 曇雨天のため日照不足になりやすく、整枝、摘葉を適正に行い採光をよくする。ただし、降雨直前や降雨中の整枝、摘葉は控える。</li> <li>② 畝間が降雨で滞水した場合は、早期に排水を行う。</li> <li>③ 草勢が低下していることから、薬剤防除の際には薬害発生に注意し、気温の低い時間帯に散布する。</li> </ul>
ヤマ ノイ モ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 萌芽始めから蔓の伸長旺盛期であり、曇雨天の日照不足で蔓は軟弱徒長しているため折れやすく、蔓直しには十分注意する。</li> <li>② 暗きよや排水溝の点検・補修を行うとともに、明きよを整備して速やかな排水を図り、根の土壌下部への伸長を促進させる。</li> </ul>
エダ マメ	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 直播の場合は、圃場の排水対策を確実にし、セル育苗は軟弱徒長しないようにトレイの置き場所や採光に留意する。</li> <li>② セル苗の定植は、移植適期（播種 10～15 日後、初生葉が展開し本葉が未展開のとき）に圃場の水分状態を見極め、晴れ間に行う。</li> <li>③ セル育苗の播種 10～15 日後に圃場状態が悪く定植が困難と思われる場合は、初生葉摘心を行い、子葉腋から 2 本が出芽した時点で定植する。</li> </ul>
施設 野菜	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 換気・通風・灌水量の調整により、湿度条件の改善に努める。</li> <li>② 薬剤の予防的防除を心がける。</li> </ul>
トマ ト	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ハウス内の高湿に伴う灰色かび病、葉かび病等の病害、過湿による根傷み、土壌病害の発生が懸念される。換気・通風改善に努めるとともに、灌水を控えめにし、根域の過湿を避ける。また、殺菌剤、液肥等の予防的な散布により病害抑制と生育改善を図る。</li> <li>② 日照不足に伴う乾物生産の減少、果実糖度の低下、茎葉の軟弱徒長、花蕾の生育不良、芯腐れ果、空洞果の発生助長が懸念される。茎葉が混み合わないよう不要な下葉や脇芽を掻き取り、残渣を早期に処分する。</li> <li>③ 曇雨天が続いた後、急に晴天となった場合、蒸散が追いつかず、茎葉がしおれやすくなる。天気予報に注意し、急晴が予想される際には、遮光カーテン等を活用し、過剰な蒸散を抑制する。</li> </ul>

イチゴ(育苗)	<p>① 降雨や高湿により病害の発生、特に炭疽病の発生が懸念される。ハウス換気を良くする一方、サイドからの雨の降り込みや雨漏りによる飛沫を避ける。灌水は、底面給水等により葉を濡らさないようにするとともに、灌水量は控えめとし、多肥を避ける。しおれ等の症状があれば、周辺の数株を含めて早期に除去するなど、耕種的防除に努めるとともに、定期的な予防剤散布を行う。</p> <p>② 曇雨天により、親株の徒長、過湿による根量低下が心配される。急に天候が良くなった場合、根量不足によるしおれ、ランナー先端枯死等が発生しやすい。ハウスの換気を良くし、徒長条件となる高温多湿を避け、また、灌水量は控えめとし、多肥栽培を避ける。株周辺の通風をはかり、受光体制を整えるため、できるだけ乾燥する日に適度な葉かき、芽かきや混み合う子株の整理を行う。</p>
果樹	<p>① 平年以上に生育をよく観察し、新梢管理、摘果、追肥、防除などの各種作業を適時適切に実施する。</p> <p>② 園内をよく観察して病虫害の発生動向に注意し、予防防除と早期防除に努める。</p> <p>③ 排水対策を徹底する。排水溝、排水口を点検し、地表面の排水を促す。</p> <p>④ 土壌流亡防止のため、草生栽培の実施あるいは敷きわら、敷き草等を行う。</p> <p>⑤ 追肥は新梢の伸長量から判断し、施用量を加減する。</p>
ぶどう	<p>① 樹勢に応じた着果量を心がける。</p> <p>② 病害の発生動向に注意し、予防防除と早期防除に努める。</p>
くり	<p>① 夏肥の効果が高まるので、樹勢に応じて施用する。</p> <p>② 実炭疽病の発生に注意し、防除を徹底する。</p>
なし	<p>① 地表面の過湿を防ぐため、厚い稲わらマルチは避ける。</p> <p>② 黒星病、黒斑病の発生に注意し、袋かけ前の防除を徹底する。</p>
いちじく	<p>① 新梢管理を的確に行い、園内の日照条件を良くする。</p> <p>② 疫病、黒カビ病の発生に注意し、園内の清掃に努める。</p>
温州みかん	<p>① 着果量や肥大状況に合わせて摘果を進める。</p> <p>② そうか病、黒点病の発生に注意し、防除を徹底するとともに、枯れ枝や罹病枝をせん除する。</p>

花 き	<p>① 露地栽培では、ほ場内の滞水を防ぐため、排水溝をさらえ、排水口とつなぎ、排水対策を徹底する。</p> <p>② 施設栽培では、換気・通風により、湿度条件の改善に努める。</p> <p>③ 花壇用苗物類では、軟弱徒長気味の生育となるため、早めのスペーシングを行うとともに、灌水を控えめにし、根張り・草勢維持に努める。</p> <p>④ 病害に対して、降雨の合間を見て定期的な予防剤の散布を行い、発生初期を見逃さないよう、ほ場をよく観察する。</p> <p>⑤ 病害の発生を認めた場合は、罹病した葉や株、ポットなどを早期に処分するとともに、治療効果のある薬剤を選択し、ローテーション散布を心がける。</p> <p>⑥ 梅雨明け後の急な日射の変化や高温による生理障害が心配される場合は、速やかに遮光等の対策を行う。</p>
--------	--

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」（ホームページが新しくなりました）  
<http://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）」  
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」  
[http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11\\_000000107.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html)
- ・「小麦赤かび病を適期に防除するための開花期予測システム」  
[http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0\\_01\\_33.html](http://www.naro.affrc.go.jp/project/results/laboratory/karc/2011/180a0_01_33.html)

問い合わせ先

**本情報に関すること**

- ・兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)

農産班: 主作・機械担当	内線 4065
農産班: 野菜担当	内線 4054
花き果樹班	内線 4066

**技術内容に関すること**

- ・県立農林水産技術総合センター

企画調整・経営支援部	TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部	TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病害虫部	TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部	TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部	TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : [http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11\\_000000097.html](http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html)  
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)